

平成30年度 B-DASH プロジェクト
「高濃度消化・省エネ型バイオガス精製による効率的エネルギー利活用技術実証研究」
実証施設の完成記念式典を開催します

日本下水道事業団（JS）では、(株)神鋼環境ソリューション・JS・富士市の3者からなる共同研究体にて、国土交通省が実施する下水道革新的技術実証事業（B-DASH プロジェクト）※において、国土交通省国土技術政策総合研究所の委託研究として、「高濃度消化・省エネ型バイオガス精製による効率的エネルギー利活用技術実証研究」を実施しています。

本技術は、投入汚泥の高濃度化によるコンパクトな消化槽、省エネ型のバイオガス精製装置、維持管理が容易な小規模水素供給装置、余剰水素を活用した高濃度メタン生成技術を組み合わせた技術です。施設のコンパクト化等による低コスト化に加え、精製ガスの発電機等への利用、製造した水素の燃料電池自動車への利用など、多面的な下水道バイオガス利活用を可能とします。

本実証研究は、平成30年7月に着手し、実証施設の建設工事を実施してまいりましたが、このたび実証施設が完成し、運転を開始しましたので、これを記念して下記のとおり完成記念式典を開催する運びとなりました。本実証施設の運転により、本技術の性能やコスト縮減効果等について検証していきます。

記

日 時：平成31年3月26日（火）14時00分～15時00分（受付開始13時30分）

会 場：東部浄化センター（静岡県富士市富士岡南260番地1）

主 催：神鋼環境ソリューション・日本下水道事業団・富士市共同研究体

付 帯 行 事：式典終了後、現地にて施設見学会（30分程度）を開催します。

そ の 他：報道機関の方の完成記念式典当日の取材に関しては、別紙にてお申し込み下さい。

※：下水道革新的技術実証事業（B-DASH プロジェクト）：Breakthrough by Dynamic Approach in Sewage High Technology Project）：下水道における新技術について、民間企業、地方公共団体、大学等が連携して行う実規模レベルの実証研究

<問い合わせ先>

技術戦略部 資源エネルギー技術課長 三宅 晴男

T E L:03-6361-7854

F A X:03-5805-1828

E-mail:Miyake@jswa.go.jp

<別紙>

完成記念式典のお問い合わせ、および式典当日の取材については、必要事項をご記入の上、
3月25日（月）正午までに下記まで申し込み下さい。

【申込先】

（株）神鋼環境ソリューション
営業本部 水環境営業部 東日本営業室 石川、佐伯
TEL：03-5931-3714 FAX：03-5931-5706
E-mail：hk.ishikawa@kobelco-eco.co.jp または sn.saeki@kobelco-eco.co.jp

国土交通省 下水道革新的技術実証事業（B-DASH プロジェクト）
「高濃度消化・省エネ型バイオガス精製による効率的エネルギー利活用技術実証研究」
完成記念式典 取材申込書

会社名	氏名	連絡先（携帯番号等）

※以下に○をつけて下さい。

完成記念式典のみ参加	施設見学会のみ参加	両方参加

<その他> ※何かご要望がありましたら、ご記載下さい。

高濃度消化・省エネ型バイオガス精製による効率的エネルギー利活用技術に関する実証事業

事業実施者

神鋼環境ソリューション・日本下水道事業団・富士市共同研究体

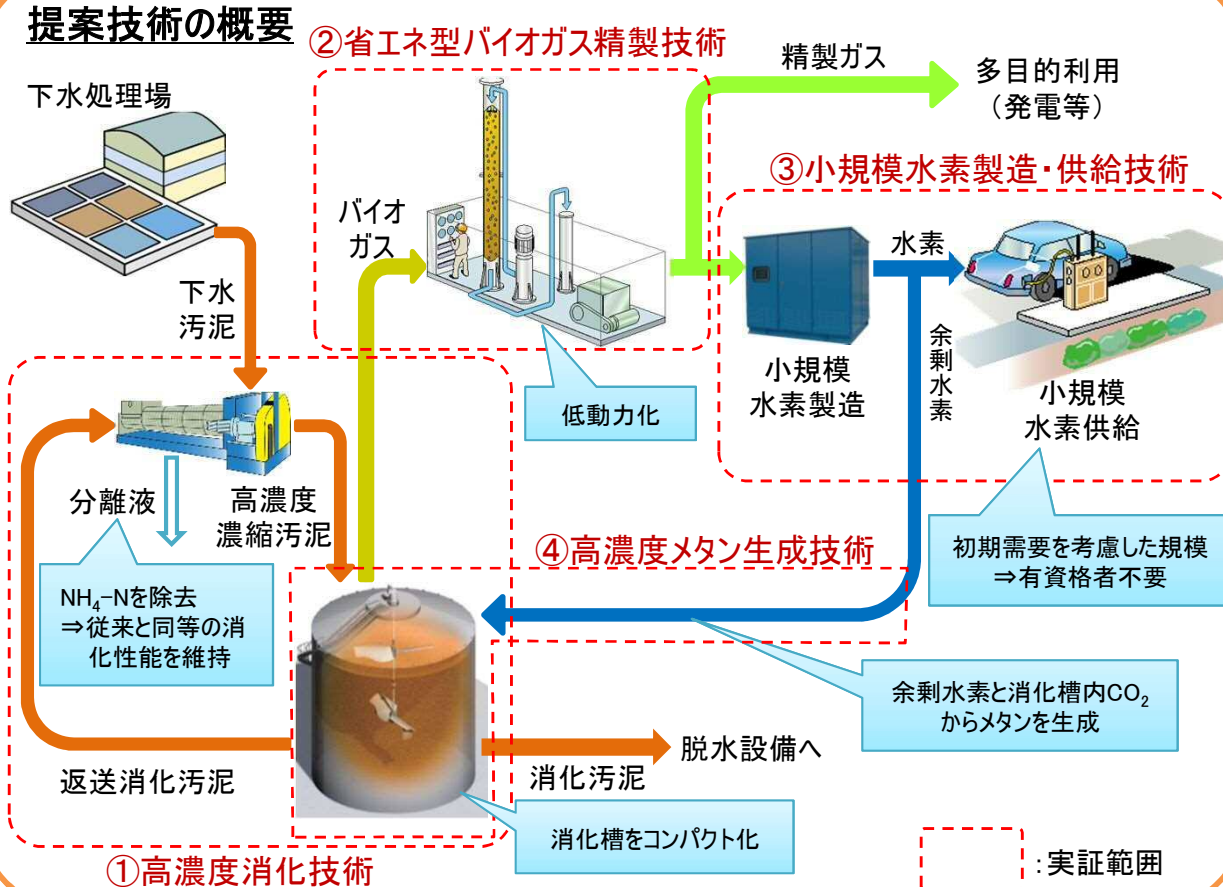
実証フィールド

静岡県富士市東部浄化センター

実証概要

①コンパクトなメタン発酵槽、②低動力のバイオガス精製装置、③小規模の水素製造・供給装置、④高濃度メタン生成技術を組み合わせた、下水汚泥からの効率的なエネルギー回収・利活用システムについて、処理性能、コスト(建設費年価+維持管理費)縮減等を実証する。

提案技術の概要



提案技術の革新性等の特徴

①高濃度消化技術

- ・消化槽投入汚泥を高濃度に濃縮
- ・消化汚泥の返送を利用したNH₄-N濃度調整等
⇒従来と同等の消化性能を維持しつつ、消化槽をコンパクト化

②省エネ型バイオガス精製技術

- ・不純物の一括除去に必要な十分な運転圧力で精製することにより、低動力性を確保

③小規模水素製造・供給技術

- ・燃料電池自動車の初期需要を考慮した小規模な設備規模にすることで、有資格者の確保が不要

④高濃度メタン生成技術

- ・余剰水素を有効活用するため、消化槽に返送し、水素資化性メタン生成菌によりメタンを再生成

- コスト(建設費年価+維持管理費)縮減が可能
- 多面的なバイオガス利活用が可能

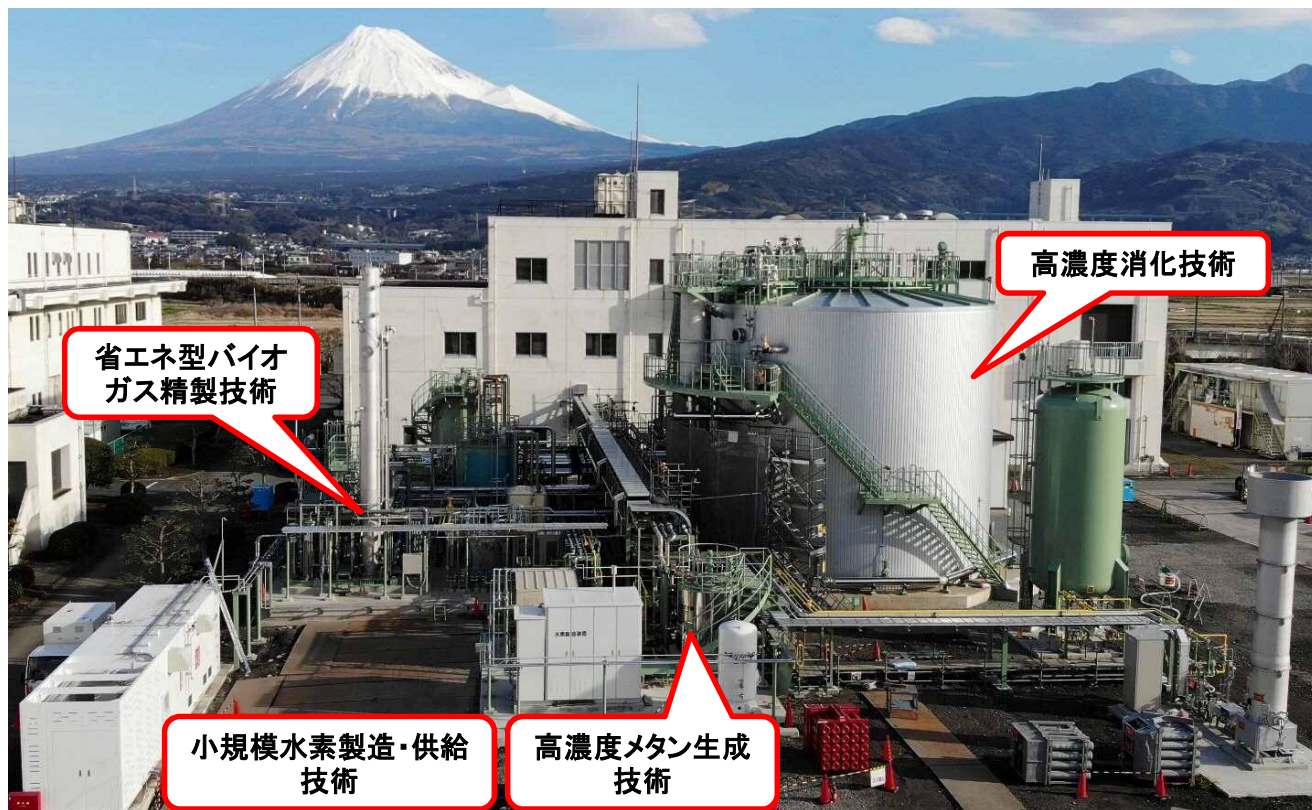
高濃度消化・省エネ型バイオガス精製による効率的エネルギー利活用技術に関する実証事業

実証施設概要

◆ 施設規模

日最大汚泥処理量 5.3 t-ds/日

実証フィールドにおける発生汚泥を、全量処理可能な規模



実証施設(全景)



高濃度消化槽(有効容積1,000m³)